記述的規範情報の呈示による行動意図の促進過程

行動の印象変化の介在と解釈レベルによる調整効果の検討

○應治麻美¹・唐沢穰¹

(¹名古屋大学環境学研究科)

キーワード: 記述的規範・解釈レベル理論・実行可能性

The process of the facilitation of behavioral intention by providing descriptive normative information

Asami OHJI¹ and Minoru Karasawa¹

(¹Graduate School of Environmental Study, Nagoya Univ.)

Key Words: descriptive norms, Construal Level Theory, feasibility

目 的

記述的規範 (descriptive norms) は、多くの人がどのように行動しているかに関する個人の認知に基づいた社会的規範である (Cialdini et al., 1990)。Cialdini らの定義によると、人が記述的規範に従うのは、多数者の行動は「普通」であり適切・効果的・効率的な行動だと考えられるためである。ただし、記述的規範情報 (例: 多くの人がエコバッグを利用している) の呈示が、当該行動に対する記述的規範の定義に沿う印象 (例: エコバッグの利用は適切な行動である) を実際に強めるか、またそれが行動や行動意図の変化を促しているかについての実証的な報告はなされていない。加えて、「多くの人がそうすべきだと考えている」という個人の認知に基づいた規範である命令的規範や、「実行が容易である」という実行可能性に関する印象も同時に強まり、行動や行動意図の促進に寄与している可能性がある。そこで本研究では、記述的規範情報を呈示することによって対象行動に対する記述的規範・命令的規範・実行可能性に関する印象が強まるか、そしてそれらの印象の変化が行動意図の促進に寄与しているかを検討した。

また解釈レベル理論 (Trope & Liberman, 2010) によると、行動の実行可能性は、状況に対する解釈の抽象度が低い場合に、意思決定に反映されやすい (Eyal et al., 2009; Liberman & Trope, 1998)。記述的規範情報の呈示が当該行動の実行可能性認知を高めるならば、状況の解釈の抽象度が低いほど、呈示された記述的規範情報が行動に及ぼす影響は大きくなる可能性がある。そこで本研究では、認知課題を用いて、記述的規範情報を呈示される際の解釈レベルを事前に操作することにより、この可能性についても同時に検討した。

方 法

講義内で募集した大学生 93 名が実験に参加した。このうち、実験操作が適切に行われたと判断された 63 名 (男性 53 名、女性 10 名) を分析対象とした。実験は、2 (記述的規範呈示: あり・なし) × 3 (解釈レベル操作: 操作なし・低次・高次) の 2 要因参加者間計画であった。まず解釈レベルの操作として、20 の単語について、低次条件では具体例、抽象条件ではカテゴリーを考えて空欄に記述するよう求めた。解釈レベルの操作なし条件では、同じ 20 の単語をそれぞれひらがなで空欄に書き写すよう求めた。その後、ある地域に引っ越してきたことを想定するよう求め、「地域でチャリティイベントが開催される」という内容のシナリオを呈示した。その際、記述的規範の呈示あり条件でのみ、「イベントは毎回大変にぎわっており、地域住民の 8 割が協力している」という記述的規範情報を与えた。その後、そのイベントに協力するという行動に対する印象評価として、記述的規範認知 (例: 協力することは適切な判断である) と命令的規範認知 (例: 多くの地域住民は協力すべきだと考えている) に関する各 10 項目、および実行可能性認知 (例: 協力は簡単である) に関する 4 項目について、9 件法 (1. 全くそう感じない〜9. 非常にそう感じ

る) で評定するよう求めた。最後に、このチャリティイベントへの協力意図 (例: 協力するつもりだ) について、9 件法 (1. 全くあてはまらない〜9. 非常にあてはまる) で測定した。

結 果

記述的規範認知 ($\alpha = .84$)、命令的規範認知 ($\alpha = .79$)、実行可能性認知 ($\alpha = .73$)、協力意図 ($\alpha = .86$) の各合算平均得点を算出し、各得点を従属変数とした 2 (記述的規範呈示) × 3 (解釈レベル) の ANOVA を実施した。その結果、記述的規範呈示の主効果が、記述的規範認知と命令的規範認知では有意であり、実行可能性認知では有意傾向であった ($F(1,57) = 11.76, p = .001$; $F = 12.94, p = .001$; $F = 3.88, p = .054$)。協力意図 ($\alpha = .86$) についても上記同様の ANOVA を実施したところ、要因の効果は見られなかった (記述的規範の主効果: $F = 1.53, p = .221$) (Table 1)。

記述的規範情報の呈示が対象行動に関する記述的規範認知・命令的規範認知・実行可能性認知を高め、その 3 つの認知が協力意図を高めるというモデルの妥当性を検討するため、共分散構造分析をおこなった。結果を Figure 1 に記す。

Table 1 記述的規範 (DN) 呈示有無ごとの各得点の平均値 (標準誤差)

DN 呈示	記述的規範認知	命令的規範認知	実行可能性認知	協力意図
なし	5.42 (.16)	5.52 (.19)	5.49 (.23)	5.48 (.29)
あり	6.22 (.17)	6.47 (.19)	6.13 (.23)	5.98 (.29)

Figure 1 共分散構造分析の結果
数値は標準化推定値。† $p < .10$, * $p < .05$, *** $p < .001$ 点線: ns
 $\chi^2 = 554, df = 2, n.s.$; GFI = .996; AGFI = .973; CFI = 1.00; RMSEA = .000

考 察

記述的規範情報の呈示は記述的規範の定義通りの印象だけでなく、命令的規範や実行可能性に関する印象も強めたが、このうち協力意図へ影響が最も大きいのは記述的規範認知であった (ただしパスは有意傾向)。また記述的規範情報の呈示から協力意図への直接のパスは有意ではなかった。以上の結果は、記述的規範の行動への影響過程に関する Cialdini らの説明を支持していると言える。実行可能性から協力意図へのパスが有意傾向であるにもかかわらず、解釈レベルの効果が有意でなかった点については、操作が不十分であった可能性があり再検討の余地がある。今回はサンプル数の少なさから実施できなかった多母集団同時分析により、解釈レベル操作によってパス図の様相が異なる可能性も今後検討していきたい。協力意図に対して記述的規範情報呈示の主効果が有意でなかったことは、シナリオの架空性が高く鮮明なイメージが困難であったためである可能性があり、改善の余地がある。

引用文献

Cialdini et al. (1990). *JESP*, **58**, 1015-1026; Eyal et al. (2009). *JESP*, **45**, 35-43; Liberman & Trope (1998). *JESP*, **75**, 5-18; Trope & Liberman (2010). *PsyRev*, **117**, 440-463